



「エルサレム陥落と命の守り～預言の成就」

| エレミヤ書講解・76 エレミヤ書39：1～18 他 小野寺 望 牧師

- 10 しかし、親衛隊の長ネブザルアダンは、何も持たない貧しい民の一部をユダの地に残し、同時に彼らにぶどう畑と畑地を与えた。
- 11 バビロンの王ネブカドネツアルは、エレミヤについて、親衛隊の長ネブザルアダンを通して次のように命じた。
- 12 「彼を連れ出し、目をかけてやれ。何も悪いことをするな。ただ彼があなたに語るとおりに、彼を扱え。」
- 13 こうして、親衛隊の長ネブザルアダンと、ラブ・サリスのネブシャズバンと、ラブ・マグのネルガル・サル・エツェルと、バビロンの王のすべての高官たちは、
- 14 人を遣わして、エレミヤを監視の庭から連れ出し、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤに渡して、家に連れて行かせた。こうして彼は民の間に住んだ。
- 15 エレミヤが監視の庭に閉じ込められているとき、エレミヤに次のような【主】のことばがあった。
- 16 「行って、クシュ人エベデ・メレクに言え。『イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。見よ、わたしはこの都にわたしのことばを実現させる。幸いのためではなく、わざわいのためだ。それらはその日、あなたの前で起こる。』」
- 17 しかしその日、わたしはあなたを救い出す——【主】のことば——。あなたは、あなたが恐れている者たちの手に渡されることはない。
- 18 わたしは必ずあなたを助け出す。あなたは剣に倒れず、あなたのいのちは戦勝品としてあなたのものになる。あなたがわたしに信頼したからだ——【主】のことば。』」

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用

【 エレミヤ書 39章 】

- 1 ユダの王ゼデキヤの第九年、第十の月に、バビロンの王ネブカドネツアルは、その全軍勢を率いてエルサレムに攻めて来て、これを包囲した。
- 2 ゼデキヤの第十一年、第四の月の九日に、都は破られ、
- 3 バビロンの王のすべての首長たちが入って来て、中央の門のところに座を占めた。すなわち、ネルガル・サル・エツェル、サムガル・ネブ、ラブ・サリスのサル・セキム、ラブ・マグのネルガル・サル・エツェル、およびバビロンの王の首長の残り全員である。
- 4 ユダの王ゼデキヤとすべての戦士は、彼らを見ると逃げ、夜の間に、王の園の道伝いにある、二重の城壁の間の門を通過して都を出て、アラバへの道に出た。
- 5 カルデアの軍勢は彼らの後を追ひ、エリコの草原でゼデキヤに追いつき、彼を捕らえ、ハマテの地のリブラにいるバビロンの王ネブカドネツアルのもとに連れ上った。バビロンの王は彼に宣告を下した。
- 6 バビロンの王はリブラで、ゼデキヤの息子たちを彼の目の前で虐殺し、ユダのおもだった人たちもみな虐殺した。
- 7 さらに、バビロンの王はゼデキヤの目をつぶし、バビロンに連れて行くため、彼に青銅の足かせをはめた。
- 8 カルデア人は、王宮も民の家も火で焼き、エルサレムの城壁を打ち壊した。
- 9 親衛隊の長ネブザルアダンは、都に残されていた残りの民と、王に降伏した投降者たちと、そのほかの残されていた民を、バビロンへ捕らえ移した。

(4ページへ続く)

◆はじめに ～さばきを前に、主に対する心の在り方を問う

(1) エレミヤ書 アウトラインの第5区分。

- ①ヨシヤの統治下で預言者としての召し(1章) ②ゼデキヤ統治以前の預言(2~20章)
- ③ゼデキヤ統治下での預言(21~29章) ④12部族の将来(30~39章)
- ⑤エルサレム崩壊後もそこに留まる者へ(40~42章)
- ⑥エジプトで語られた周辺諸国への言葉(43~51章) ⑦エルサレム崩壊の預言の成就(52章)

◆メッセージのアウトライン紹介とゴール

| 異邦人に注がれたイスラエルの神の恵み

*このメッセージは、ユダヤ人にも異邦人にも成就した神のこぼれを学ぶものである。

I 陥落を目の当たりにした人々(1~10節)

1.民の記憶に刻まれた悲劇の日(52章、また2列24章は平行する記事)

(1) 陥落、そしてユダヤ人たちの記憶に

- ①前588年、バビロン軍はエルサレム包囲を開始し、18か月で陥落させる。
- ②この捕囚は前586年の第4の月(7月)の9日のことである。
(1回目の前605年、2回目の前597年に続き、3度目にあたる)
- ③この日はティシャベ・アブ(アブの月の9日)と呼ばれ、忘れられない悲劇の日となった。



2.ゼカリヤの逃亡、逮捕、そして虐殺

(1) バビロンの王の首長たちは、中央の門(黄金門)に軍事司令部を置いた時、ユダの王ゼデキヤとその軍は、密かに脱出を図る。

(2) 現在のシロアムの池のそばを通り、二重の城壁の間の門(泉の門)を抜けてヨルダン渓谷にあるエリコに向かう。

*かつて、ヨシヤの軍が上ってきたルートの逆である。

(3) しかし、バビロン軍は追いついて彼らを捕縛した後、ハマテのリブラにいた、ネブカドネツアル王の元に連れ上る。

*今のシリアにあたり、エルサレムから北方350キロである。

(4) 王の親族や首長は虐殺され、王自身も暴行を受ける。

- ①ゼデキヤの子たちは、王の前で虐殺され、ユダの首長たちもみな虐殺される。
- ②ゼデキヤは両目をえぐられて、バビロンに連れて行かれる。
- ③しかし、「ゼデキヤ自身が剣では死なない」という預言は成就した。

3.エルサレムに残った民の扱い

(1) 王宮や民家などの破壊

①バビロン軍は、王宮も民家も火で焼き、城壁は取り壊された。

*これらもエレミヤの預言の成就である。

(2) 優れた親衛隊の長(侍従長)による戦後処理

①ひと月後にやってきたネブザルアダンが、戦後処理にあたる。

②町に残った者、王に降伏した者などは、バビロンに捕らえ移された。

*彼らは死を免れ、捕囚の地で新しい生活を始めることになる。

③何も持たない貧民の一部はユダの地に残された。

*その日、彼らには畑地とぶどう畑が与えられた。無産階級が地主になった。

II エレミヤの扱い(11~14節)

1.ネブカドネツアル王の計らい

(1)「彼を連れ出し、目をかけてやれ。何も悪いことをするな。ただ彼があなたに語るとおりに、彼を扱え。」

①ネブカドネツアルはエレミヤを知っており、ネブザルアダンに彼を良くしてやるように命じた。

②監視の庭から連れ出され、民の間に住むようになった。

2.なぜエレミヤは知られていたか

仮説①:バビロンに投稿した兵士たちが、預言者エレミヤの活動を話した。

仮説②:預言者ダニエルが王に働きかけた。

*第一次の捕囚(前605年)に含まれたダニエル一行は、バビロンで高官になっていたが、彼らはエルサレムにいた頃に、エレミヤの影響を受けていて、彼らの話を通して王は知った。

III エベデ・メレクへの約束の成就(15~18節)

(1)彼は38章で、ユダの首長たちの殺意からエレミヤを救った。

①15~18節は、本来38:13の直後に並べるべき預言である。

②ここに出て来る理由は、エルサレム崩壊に関して、エベデ・メレクに関する預言も成就したことを示すためである。

③この約束は彼が神を信頼したことによる。アブラハム・イサク・ヤコブの神、イスラエルの神を信じていたからであり、旧約時代にイスラエルの共同体の中で生活し、ヤハウエへの信仰により祝されたクシュ人(異邦人)である。

◆まとめ:異邦人にも注がれたイスラエルの神の恵み

(1)神のこぼれは、確かに成就したという歴史的事実を直視しよう。

(2)エベデ・メレクは新約時代のクリスチャンの象徴である。